

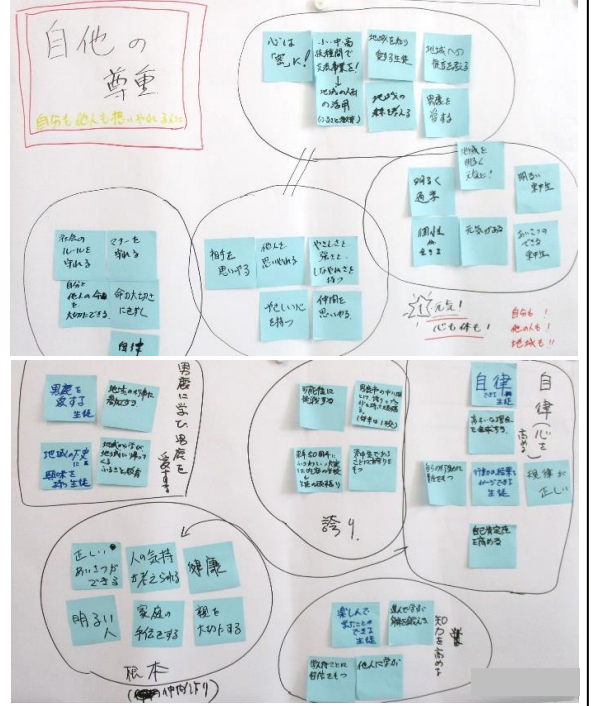
# 「地域が求める東中生」とはーコミュニティ・スクールの熟議からー

今年度3回目となる学校運営協議会（以下、協議会）が11月15日に行われました。協議会は、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」へ転換を図るための仕組みで、協議会を設置する学校のことを「コミュニティ・スクール」と呼びます。男鹿市では平成28年度から市内の全ての小・中学校をコミュニティ・スクールに指定して今年度で6年目になります。今回の熟議は学校と地域が協働で学校運営に取り組む一環として、地域が期待する生徒の姿を知り、学校が目指す姿とすり合わせ、今後の方向を見定めていくことをねらいとして行いました。委員個々が「こんな東中生であってほしい」と考える姿を付箋紙に書き、同じものや似ているものを集め、それぞれの集まりを関連付けていきました。2グループに分かれ、活発な意見交換の末、右の写真のような「求める東中生」像が完成しました。

委員からの主な意見は次のとおり。「自他の命を大切にできる」「優しさ、強さ、しなやかさをもつ」「明るく挨拶できる」「楽しみながら進んで学び、自分を鍛える」「行動の結果をイメージして自律できる」「地域を愛し、東中を誇りに思う」など、本校の教育活動を力強く後押しして下さる意見を多くいただきました。本校が目指す生徒像は次のとおり。

- 【学ぶ生徒】見通しをもって自ら学ぶ生徒
- 【挑む生徒】自信をもって笑顔で挑戦する生徒
- 【結ぶ生徒】仲間や地域と絆を結ぶ生徒

「行動の結果をイメージ」「進んで学び、自分を鍛える」は見通しをもって自ら【学ぶ生徒】の姿そのものです。また、【挑む生徒】の「自信」「笑顔」「挑戦」、【結ぶ生徒】の「仲間」「地域」「絆」とつながるキーワードが地域の願いにも散見されます。さらに、学校経営の基盤となる考え方が「自らを律してよい習慣を付ける」であることから「自律」「自他の尊重」は、地域と学校が同じ方向を目指していることを確認する機会となりました。地域に学び、地域を知り、地域を愛する生徒もまた、地域に貢献する生徒会の目標と合致しており、自信をもって推し進めたいと考えます。



## 活動の見直し進むPTA③

令和3年9月26日付け、秋田さきがけの「教育2021 PTAの在り方⑥」では「活動の見直し進む」「生活様式の変化きっかけ」の見出しで次のような内容の紹介があります。

- ①オンライン化…連絡事項の文書を紙で作成して配付する方法から、スマートフォン上で瞬時に予定を共有する方法に、煩雑な作業が大幅に減った。「子どもたちのためになる活動を、無理せず、誰でも気軽に参加できる体制にしたい。そのため、各専門部でどんなことが行われているか、全体像を把握できるのがいい」
- ②事業仕分け…参加者が偏っていたイベントは他のイベントと合同にした。内容が重複していた事業は廃止。保護者全員が輪番制で行っていた活動は…家庭の事情に応じて活動を選びやすくした。見直しを進めながらも、PTAにできることを模索し続けている。
- ③エントリー制…希望参加型のエントリー制にできないかを考えた。保護者の働き方も価値観も多様化する中、PTAが変わる契機ではないか。本年度は試験期間。PTA活動を事業計画として設定せず、学校と話し合いながら必要な活動を選定してその都度、参加希望を取っている。

本校でも学校メール配信システムの変更により、メールによる案内や出欠確認は容易にできる状況にあります。事業仕分けは統合や廃止という視点から多くの事業がその方向にあると考えられます。そもそも生徒のための活動という視点からはかけ離れており、エントリー制の中で言われている「PTA活動を事業計画として設定しない」「必要な活動を選定、その都度、参加希望を取る」という方向はできそうです。また、初めから学校主導で事業を計画することは、教員の負担だけが増えてしまうだけでなく、保護者の主体性を確保できないことが心配されます。（おわり）

## 学校評価への回答をー回収率100%を目指しますー

11月30日付けで「教育活動に関するアンケート」を、お子さんを通じてお届けしております。2年間の休止を余儀なくされたPTA活動を、来年度から再開するに当たり、見直しをするべく、保護者の皆様の意向を伺う質問項目を新設しています。PTA活動に関する問題提起は学校報「東明」にて10,11,12月号に連載で取り上げております。是非回答いただくようお願いいたします。

## 英語科教員配置ー2年英語指導体制の強化ー

5月以来、伊藤睦子教諭及び佐藤富美男教諭の二人体制で授業を行ってきた2年生の英語科に、11月22日付けで新しい教員が配置されました。氏名を安倍(あんばい)聡子(さとこ)といいます。にかほ市の出身で、現在は男鹿市在住です。大学卒業後は本や雑誌の編集の仕事や記者の仕事に携わったとのこと。東日本大震災をきっかけに秋田に帰省し、学習塾や英会話教室で働いてきたそうです。この間、英語を学び直す中で、学校に勤めて生徒に英語を学ぶ楽しさを知ってもらいたいと考え、教員採用試験を受験したと新任式で話していました。今年度も残すところあと4か月ですが、伊藤教諭や佐藤琢真教諭とのチームティーチングでの指導、又、1年のチームティーチングを担当します。

